

「温かい目で見守って」

室蘭で障害者理解促進研修会

支援活動を紹介

室蘭市主催の障害者理解促進事業研修会が、輪西町のわにホール市民会館で開かれた。市内の支援団体関係者が講師となり、障害者の疑似体験や活動内容などを紹介。参加した市民約90人はさまざまな障害について理解を深めた。

力会長の鈴木大輔さんは、知的・発達障害をテーマに講演。ペットボトルを半分に切り、ろうと状になった底から飲み口をのぞきこみ「興味があることしか目に入らない」視点を参加者に体験してもらった。

その上で、障害によるさまざまな行動に対し「特別何かをしてほしいわけではない。温かい目で見守っていてほしい」と訴えた。

このほか、東町の市障害者福祉総合センター・びあ216の中村正志所長が、障害者に配慮した周辺環境の整備や、市から委託されている事業、養成講座について紹介した。

中央町の室蘭市相談支援センターらんでピアサポーターとして所属している盆子原勉さんは、ピアサポーターとは何かを説明した。

(叶内のりか)